

# ともしび

## 私の南無阿弥陀仏

井上直之

(釋直道)



二月四日、東京教区仏教壮年会  
連盟・結成記念日一日研修会で、  
お寺の壮年会のメンバーと一緒に  
芝にある増上寺を参拝しました。

増上寺は法然上人が開かれた浄  
土宗のお寺です。ですから、普段  
はあまり縁のない他宗のお坊さん  
のご法話を聴聞させていただく  
ことができました。

金子みすゞの詩「みんな違って  
みんないい」ではないけれど「ど  
ちらの教えが正しい」と議論する  
場ではなく、仏法をいただいたも  
の同士がともに南無阿弥陀仏を称  
えさせていただけると、大変有難い  
ご縁に恵まれた研修会でした。

さて、先日あるニュースで「サ  
イガ二十万頭大量死」という記事  
を読み、「サイガが全滅だ、えらい  
ことだ」と驚きました。

しかし記事をよく読んでみると、  
三年前に中央アジアのカザフスタ  
ンで、絶滅危惧種のサイガという  
鼻の大きな鹿のような動物が二十  
万頭も大量死した原因が、細菌の

増殖によるものと最近判明した、  
という内容でした。

そして、次に読んだニュースは、  
北朝鮮では正月早々、堆肥生産の  
ために人糞を求めてさまよい歩か  
なければならぬ、量が少ないと  
罰則、という記事でした。海を渡  
れば日本から目と鼻の先にある北  
朝鮮。そこで同じ国民同士が人糞  
の奪い合いで争っている、何て悲  
しい出来事かと私は思いました。

ただ……「サイガ」はよく知  
らない動物だし、北朝鮮の国民で  
もない自分はそんな苦勞に縁がな  
い、と、そのような悲しいニュー  
スでも、時間が経てば私の関心は  
薄れてしまうのです。

同じ命をいただいているのに、  
他の苦しみを理解できなくなるの  
はとても悲しいことです。しかし、  
私を含め皆さまも、自分の人生を  
一生懸命に生きるだけで精一杯だ  
と思います。

阿弥陀さまは、冷酷非情の私、  
自分中心に生きている私たちの心

なんてとづくに見抜いていて、そ  
んな私たちがだからこそ、必ず救う  
と仰っています。

親鸞聖人の「未熟な私たちがだか  
らこそ救いとつてくださる阿弥陀  
さま」という教えに私は何度も励  
まされて生きてきました。

そして、そんな未熟な私が、今  
宗願寺の住職としていられるのは、  
その親鸞聖人のみ教えと、皆さま  
の温かな支えがあったからこそだ  
と思っております。

浄土真宗のみ教えでは、私たち  
が手を合わせ「なんまんだぶ」と  
称えたお念仏は、阿弥陀さまのは  
たらきによって出たお念仏です。  
「ちよつと待って、自分が手を  
合わせて、自分の意志でなんま  
だぶつて称えたんだけど」と、思  
われる方も多いことでしょう。し  
かし、今の「私」たちの心、この  
人格は私の力だけでできあがった  
ものでしょうか。

お会いしたこともない多くのご  
先祖、そして数え切れない多くの  
方々とのご縁、そんな不思議なご  
縁に支えられたからこそ、私のこ  
の心があり、今の私がいるのだと  
思います。

それが分かると、自分の口から  
出た「南無阿弥陀仏」のお念仏は、  
たくさんのご縁に支えられて初め  
て出てきたお念仏とも言えます。  
永代経には、無限のご縁に感謝  
させていただきながら、皆さまと  
ともに「阿弥陀経」のお勤めをで  
きたら良いな、と思っております。

南無阿弥陀仏

### 連研に参加してみませんか

茨城西組連続研修会、十三期目  
の第一回が宗願寺で開催されます。  
浄土真宗の学びを深めてみませ  
んか。新しい気づきをいただくと  
は嬉しいことです。希望者はお寺  
までご連絡ください。

五月九日(水) 午前10時半  
ご講師は藤本真教師  
参加費 千五百円

### 母の近況



お寺を訪れる皆さまから、母の  
病状について尋ねられることがあ  
ります。「寝てばかりいますけれ  
ど、ご飯はちゃんといただしてい  
ます」とお答えしています。

四年前のソチオリンピックのと  
きには、深夜一人で寒い部屋の炬  
燵に入り、テレビをつけて、大好  
きなフィギュアスケートを見てい  
た母でした。今回はまったく関心  
を持ちませんでした。見たら楽し  
かったのに、と残念です。

以前、食事ができなくなると、  
十数キロ痩せたこともありましたが、  
今では三食いただくことがで  
きます。私は工夫して母の喜ぶも  
のを作る毎日です。

足の悪い私に代わって、妹の典  
子が入浴をさせてくれます。最近  
ではそれが楽しみらしく、自分か  
ら「お風呂に入らない」と催促  
することもあります。

きちんと引継ぎをしないまま母  
が倒れたので、お寺の仕事で悩ん  
だりします。先日はお墓の問題で  
聞きたいことがあって質問したと  
ころ、はっきり覚えていて正しい  
説明をしてくれました。「何も分  
からない」と言うことも多い母な  
ので、驚きました。

「ちよつとちよつと、トイレに  
行きたいんだけど行ってもいい  
の？」と何度も何度も繰り返しま  
す。「はい、どうぞ行ってくださ  
い」と答えると「はい」と嬉し  
そうによちよち歩き出しました。  
笑うことがほとんどなくなり、  
怒ったり愚痴を言うことも多いの  
ですが、稀にお念仏が聞こえるこ  
とがあります。そんなときには、  
心が疲れている私も、温かな気持  
ちになり、いのちの不思議を思い  
ます。(由真記)

### お知らせ

- 宗祖降誕会 4月29日(日) 午前11時
- 花まつり 5月5日(土) 正午
- 大乘院釋弘三祥月法要 6月10日(日)
- あじさい忌 6月23日(土) 午前11時
- 全戦没者追悼法要 8月15日(水) 午後6時

# 婦人会

## だより



今年の永代経も、清掃やお齋作りに大活躍の婦人会です。久しぶりにその活動の様子などを報告させていただきます。

(由真記)

### 立春拝賀式

二月四日は立春拝賀式、いつもの女正月を楽しく過ごしました。本堂でのお勤めと法話の後、皆さん手作りのクルミ寿司や色とりどりのご馳走で乾杯、ビンゴゲームも盛り上がりしました。



ビンゴゲーム



お齋

### 羽生選手を応援

二月十六日の定例会は、午後一時から「讃仏偈」のお勤めをした後、予定を変更してオリンピックの男子フィギュアスケート、ショートプログラムの羽生選手と宇野選手をテレビ観戦しながら応援しました。ライバル選手の転倒にキヤー!

### クルミの木の伐採



1月12日

お墓の中央で、毎年秋に豊かな実りを届けてくれたクルミの大木、中心がほとんど枯れて、枝の落下の危険があることから、クレーン車を入れて伐採しました。女正月の「クルミ寿司」はこのクルミで作りました。懐かしい「お墓のクルミ」がなくなってしまうこと、寂しいです。

(由真記)



### 仏さまになつた御法

と声を上げた人の心模様について、皆で語り合ったりしながら、ドキドキ興奮の時間を過ごしました。「信心のさだまるとき 往生もたださだまるなり」の言葉を味わう勉強は、家での宿題となりましたが、皆の心に残る思い出のひとつとなったはずです。

### 御礼とご報告

釋直道

昨年夏、集会所のエアコンが壊れ、新しいものと買い換えました。本堂にも初めてのエアコンを入れ、夏のご法事が涼しくお勤めできるようにになりました。

公道にせり出して、危険との指摘を受けていた桜の大木と、お墓のクルミの木を伐採しました。竹林も整備しました。

新しい墓地を六ヶ所作ることもできました。

少しずつですが、お寺の悩みが解消しつつあります。

すべて皆さまの営繕費への協力のおかげです。心より御礼申し上げます。

### 彩弥と弥那との日々



ちょっとおすまし

彩弥は二歳九か月、弥那は八か月を迎えました。二人だけでも少しずつ遊べるようになってきて、信頼関係ができてきているのだと嬉しく思います。

子どもが遊んでいる間、私は大抵側で見守っていて、危険なときや公共の場で騒いだりしたときに鋭く注意します。必要なことなのでそのときは気にしていませんが、叱ったりやめさせることが正しいのか迷うこともあります。例えば、遊びの延長でおもちやを取り合ったり、ケガをしない程度の運動に挑戦したりすることなどを。

また、屋内の支援センターに行つたとき、いつの間にか彩弥がオムツ一枚で疾走していたことがありました。タイトとスカートが丁寧におもちやのテーブルに置かれていて、私も吹き出してしまいました。何も言えなくなっていました。

日常の小さな出来事に悩み、迷い、安心と解決を求める私は、まだまだ未熟と言わざるを得ません。阿弥陀さまのはたらきは、自分の都合を超えた大きな真実です。子どもは私を教化してくれているのだらうな、とみ教えを振り返る日々です。

(明寿子記)

### 編集後記



前回ご紹介した石井遊佳さんが、芥川賞を受賞され帝国ホテルでの受賞式に私も仲間と参加しました。

高齡のご両親の涙に、今日までのご苦労がしのばれたことです。

今号から「彩弥と弥那との日々」が連載となります。前回の掲載を皆さんが喜んでくださったので、明寿子ちゃんにお願いしました。

母のことをきちんとお伝えすることは難しいのですが、彼女はこれのお寺を賑やかにしてくれた恩人です。幸福な療養生活をして欲しいと願いつつ、自分の力のなさを感ずる毎日で。

母の傍にいて、外出することがあまりないのでテレビをよく見ます。今回の平昌オリンピックは楽しかったですね。

普段、お隣の韓国については、首をかかげることも多い私でしたが、今回は素直に「ありがとう」という気持ちです。日本人選手の活躍は、整った環境があつて初めて可能になることだからです。

様々なことがあります。私を支えるものは南無阿弥陀仏であると、それだけは忘れず精進いたします。

合掌

発行・宗願寺門信徒会  
編集責任者・井上由真  
(由美子)

カット・大建弘子  
(印刷所・阿部印刷)